

擁壁 高さ 1,0m ~ 1,9m の施工要領

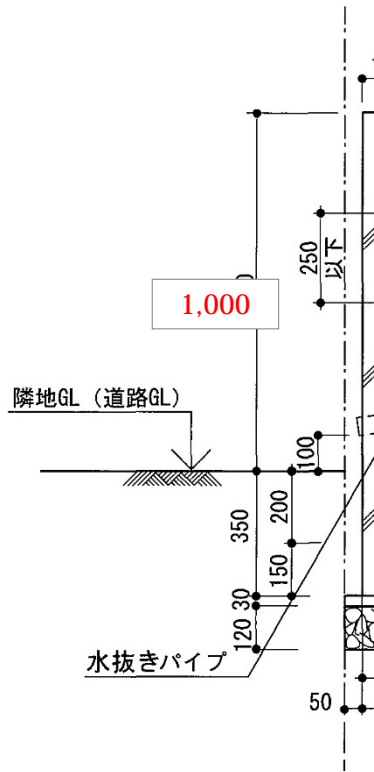
1) 設計仕様

a. 配置図 (平面図)



b . 断面形状

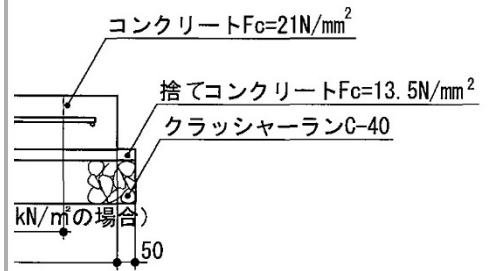
例 - 1

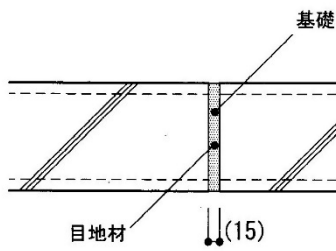
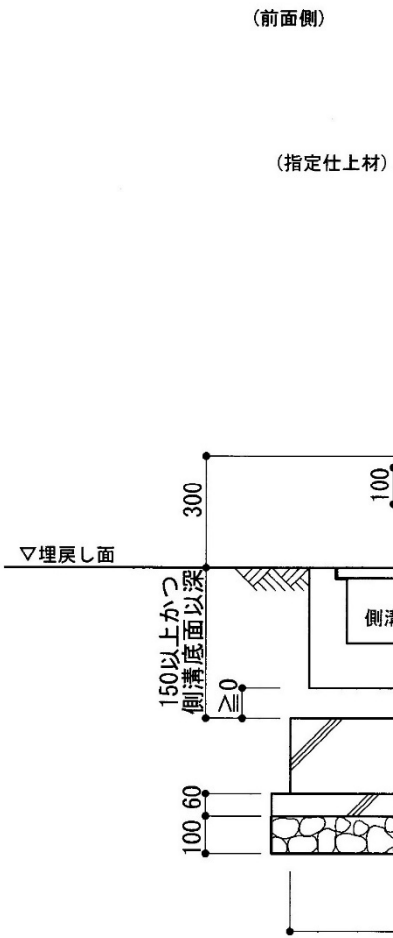


内容イメージ

砕石)

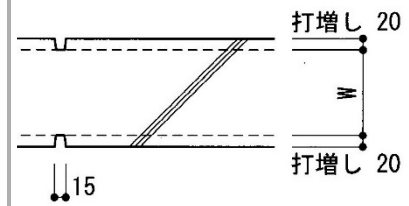
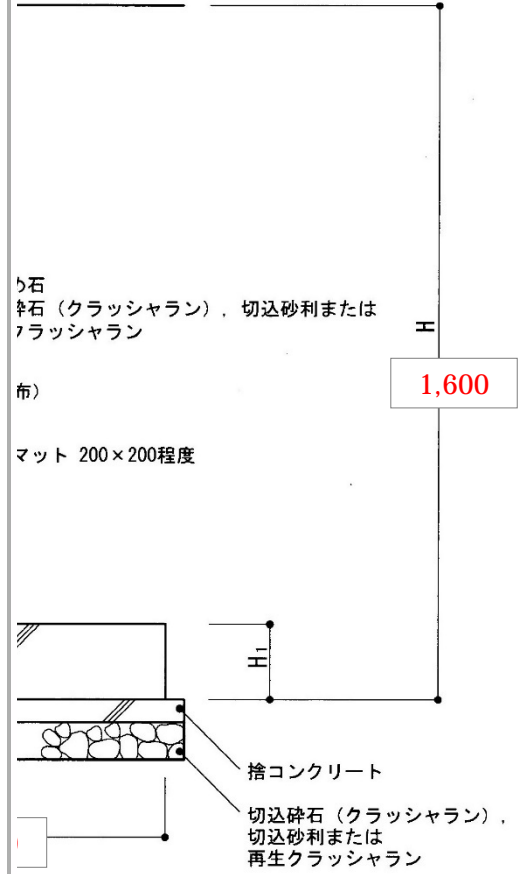
コンクリート





a 部 (伸縮目)

内容イメージ



b 部伸縮目地

2) 一般事項

a. 施工数量

H=1,600
水抜きパイプ
エキスパンション

	32m

b. 使用材料

名 称
碎石
生コン
鉄筋
水抜きパイプ
エラストイト
透水マット

	数 量	備 考
18cm		

c. 擁壁工事工程

仮設	
掘削	
型枠	
鉄筋	
コンクリート	
水抜きパイプ	
埋め戻し	

内容イメージ

3) 施工

a. 水盛りやり方

- ・基準より測り出し、丁張り
- ・敷地境界に接する場合は、

b. 土工事

(1) 根切り

- ・必要に応じて H 形鋼、
- ・バックホウにて所定の
- ・掘削土のうち埋戻し用
- ・現場の条件により、ス
- ・山留めを施工しない場
- ・床付け面を荒らさない。

(2) 残土搬出

- ・予め計画したルートと
- ・ダンプの台数は、現場の
- る。

(3) 敷き砂利

- ・砕石 C-40 を用い、所
- ・再生砕石を使用する場

(4) 捨てコンクリート

- ・捨てコンクリート用の型
- ・設計強度 18N/mm^2 ス
- 用い所定の高さで平坦
- ・また、墨出しが行いや

c. 基礎底盤

(1) 墨出し

- ・基準点から測りだし、
- ・位置を出したら、廻り
- ・捨てコンクリートに逃げ
- 躯体墨として利用する。

(2) 足場

- ・築造する擁壁の前面・
- ・擁壁のベースコンクリ
- ・ポイド管撤去後は生コ
- 補強筋の必要はない。

内容イメージ

行う。

る。

勾配を超えないように注意する。

を仕上げる。

数で、残土を搬出する。

時間を考慮し、経済的な台数で搬出す

または振動プレートにて転圧する。

ートを所定の厚みで打設し、コテ類を

げとする。

。

を利用しベースコンクリート打設後、

リート打設用の足場を組立てる。

管(75mm 以内)で箱抜きを行う。

75mm 以下で箱抜きする場合は、

(3) 鉄筋工事

- ・鉄筋加工図に従って加工する。
- ・鉄筋の結束線は、0.8m
- ・スペーサーブロックは、
- ・壁のスペーサーブロック
横 2.5m で配置する。
- ・底盤の上筋は、鉄筋を加

(4) 底盤型枠組立

- ・木製型枠を墨にあわせ
- ・型枠に打設高さの墨を
- は、コンクリート天端

(5) 底盤コンクリート

- ・コンクリート打設前に
- ・生コンはプラント出荷
- ・コンクリートの締め固
- ・コンクリートの表面仕
- て仕上げとする。
- ・コンクリート打設後（
- ・冬季(外気温 4 以下)の
- ・冬季以外は、養生期間
- ・型枠の解体時期は、設

d . 擁壁本体

(1) 墨出し

- ・捨コンクリートに出し
- ・型枠建込み用にタテ筋

(2) 水抜パイプ

- ・ **VP 75mm** の塩ビ管を
- ・木製型枠の前面に、予
- を用い縦横 3 m²以内毎
- ・逆勾配にならないよう

(3) 躯体型枠組立

- ・墨にあわせ木製型枠を
- ・前面の化粧面はパネコ
- 離剤を塗布する。
- ・また、セパレータ（Pコ

(4) コンクリート打設

- ・コンクリート打設前に、
- ・生コンはプラント出荷から打設元までは、50分以内とする。
- ・コンクリートの締め固め方法は、高周波バイブレータを使用する。
- ・躯体の天端の表面仕上げは、金ゴテ仕上げとする。

結束する。

)を使用し間隔は縦横 1m で配置する。
mm ~ 60mm)を使用し間隔は縦 1.5m、

トーとする。間隔は縦横 1.5m とする。

間隔で 45mm の釘を打つ。タテ筋に
わせ巻く。

除き、さらに水などで洗い流す。

以内とする。

ターを使用する。

のみ金ゴテ仕上げとし、その他は木ゴ

を敷き散水養生を行う。

で保温する。

た存置機能を厳守する。

ト面に躯体墨を出す。

ビニールテープを巻く。

折する。

ブ固定金具（商品名：ハイパッカー）

設時に動かないように固定する。

パネを使用する。両方共ケレンし、剥

よく割り付ける。

などで洗い流す。

・コンクリート打設後（仕上げ完了後）、養生マツを敷き散水養生を行う。天端にも水を溜める。

・冬季(外気温 4℃以下)の散水養生を行う。

・型枠解体時期は、設計図

(5) 止水コンクリート

・最下部の水抜きパイプの

で表面を仕上げる。

(6) 裏込め砕石

・裏込めに再生砕石を所定

とに転圧する。

(7) 透水マツ

・擁壁背面全体に透水マツ

e. 養生

(1) コンクリート打設後は直

必要に応じ、散水その他

(2) コンクリート打設後 24 日

衝撃を与えたりしないよう

(3) 寒冷期においては、コン

温度を 2℃以上を保つよう

f. 型枠の取り外し

せき板の取り外し期間は、

衝撃を与えないように取り外

表 せき板の存置期

存置期間中の平均気
15℃以上
5℃以上

g. 埋戻し

コンクリートの強度が確認

い、ランマーなどで十分締

保温する。冬季以外の養生期間中は、

型枠の存置期間を厳守する。

リートを所定の寸法で打設し、木ゴテ

打設後養生期間を 2 日以上設ける。

埋戻しする。ランマーなどで 30cm ごと

に転圧する。

避けるために養生シートなどで覆い、

湿潤養生を行う。

は作業をしてはならない。その後も、

打込み後 5 日間以上コンクリートの

以上とする。また、コンクリートに衝

じ、増減することができる。

ンクリートの材齡

メント 普通ポルトランドセメント

3 日

5 日

30cm ごとに土を投入、敷き均しを行